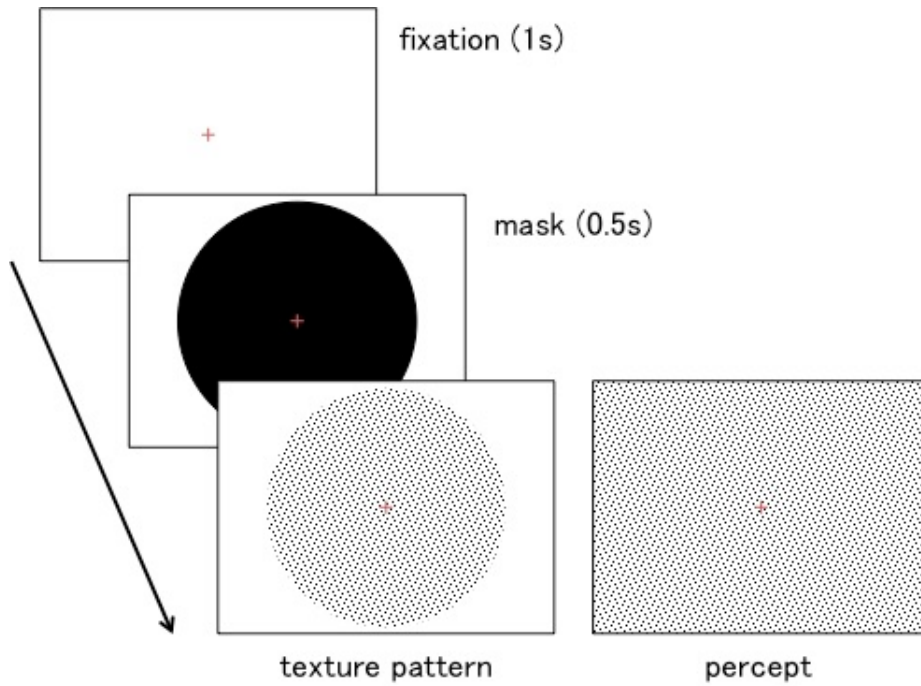


マスク誘導充填 Mask Induced Fillingin



低コントラストのテクスチャパターンを中心視野に呈示する直前に、そのパターンの輪郭と同じ形状のマスクを一瞬呈示すると、テクスチャパターンが周辺視野に充填 (filling-in) して知覚されるという錯視である (MIF_a.mp4)。錯視の生起にはマスクとパターンの輪郭形状の一致が重要であり、輪郭線だけのマスクでも同様の錯視が生じる (MIF_b.mp4)。

充填は柔軟に行われる。例えば左右視野に二分割、あるいは上下左右に四分割したテクスチャパターンをマスクに続けて呈示すると、各々の分割視野にそれぞれのパターンが充填される (MIF_c.mp4・MIF_d.mp4)。また、周期性さえあれば、ある程度複雑なパターンも充填されるようである (MIF_e.mp4)。

周辺視野にマスクをかけても、周辺視野のテクスチャが中心視野に充填されることはない (MIF_g.mp4)。むしろこの場合、中心視野の白い色が周辺に充填され、周辺視野のテクスチャが消えて見える。またマスクとパターンの呈示の間に目が動いたり瞬きをしたりすると錯視は生じない (この錯視が観察できない人は目が動いてしまっている可能性が高い)。以上のことから、周辺視野の解像度の低さや色に対する感度の低さを補って視野全体をクッキリと色づけて見せる視覚系のメカニズムが、この錯視に関与しているのではないかと考える。

作者氏名：田谷修一郎

所属：大正大学人間学部人間科学科

連絡先：s_taya[atmark]mail.tais.ac.jp